

第5回日本伝道会議報告

シンポジウム・アイヌ宣教

宣教の「文化脈化」目指して



北海道では、JCE5の開催が決まった3年前から多くの教会が協力し、準備を進めてきた。当日のポフンテ...



男性の正装をまとった山丸さん



二宮一朗氏

シンポジウム「アイヌ宣教」では、北海道聖書学院院長の八尋勝氏の司会のもと、アイヌ民族博物館伝承課長でアイヌ民族の山丸郁夫氏、これまで先住民民族宣教に携わってきた二宮一朗氏(イエス・キリスト・我孫子栄光教会牧師)が講演。台湾基督教長老教会総会副総幹事のシン・オラム氏(アミ族)をコメンテーターに迎えた。

歴史を悔い尊厳と文化を重視

化について語った山丸氏は、「08年、アイヌが先住民として正式に認められたことは、実に140年ぶりの快挙。民族博物館を訪れる人たちは、まずアイヌのことを知らない。アイヌの文化に不可欠なある歌と踊り、体験学習などを通して、多くの方に興味をもっていただければ」と期待を込めた。

アイヌ民族の歴史と文化について、和人の教会はアイヌ民族に対してほとんど宣教をしていなかった。また、和人の教会はアイヌ民族の歴史と文化を重視した。バチエラーによる働きが大きい。アイヌ民族の尊厳や言語を重視したバチエラーの宣教は、差別の中にあつたアイヌ民族にとつて、アイデンティティと尊厳回復の上で非常に意義があつた。

アイヌ民族に対する宣教は、『新約聖書』、『アイヌ語辞典』などの発行や弟子の育成、教会設立に貢献した聖公会のジョン・バチエラーらによる働きが大きい。アイヌ民族の尊厳や言語を重視したバチエラーの宣教は、差別の中にあつたアイヌ民族にとつて、アイデンティティと尊厳回復の上で非常に意義があつた。

Photograph 開催地が光る



入り口でインフルエンザ対策の消毒をする奉仕者。スムーズな開催のため配慮が行き届いていた



「地域別交わり・北海道」では、準備を重ねてきた牧師、信徒らが労をねぎらい合った

主にあつて仲良くやること

声 VOICE



開催地委員長 八尋勝氏

豊かな実りある伝道会議となりました。先達の信仰に学びつつ、神に対する悔い改めと主イエスへの信仰を新たに、新しい日大となることができますように、と。

Advertisement for the 5th Japan Evangelical Conference, listing various participating churches and organizations like 東京中央教会, 関西聖書神学校, 日本バプテスト教会連合, etc.